J I A
中国支部
The Japan Institute of Architects

annual report

アニュアルレポート（支部活動報告書）中国 ２００９

— 発 行 —
平成 22 年 4 月

— 制 作 —
社団法人日本建築家協会中国支部
〒 730-0013 広島市中区八丁堀 5-23 オガワビル
TEL (082) 222-8810 / FAX (082) 222-8755
URL http://www.jia-chugk.org

— 表 紙 —
株式会社松岡製作所（交流部会）
専務取締役 松岡 剛

— 印 刷 —
（有）アウルズコーポレーション

J I A
中国支部

アニュアルレポート中国 2009

annual report

建築家憲章

建築家は、自らの業務を通じて先人が築いてきた社会的・文化的な資産を継承発展させ、地球環境をまもり安全で安心できる快適な生活と文化の形成に貢献します。

（創造行為）
建築家は、高度の専門技術と芸術的感性に基づく創造行為として業務を行います。

（公正中立）
建築家は、自由と独立の精神を堅持し、公正中立な立場で依頼者と社会に責任を持って業務に当たります。

（たゆみない研鑽）
建築家は、たゆみない研鑽によって自らの能力を高め役割を全うします。

（倫理の堅持）
建築家は、常に品性をもって行動し倫理を堅持します。
社団法人日本建築家協会（ＪＩＡ）会員は上記憲章のもとに集う建築家であり、ＪＩＡは会員の質と行動を社会に保障するものです

CONTENTS

■2009 年度　中国支部事業　総括
支部長　村重保則

■副支部長発
「フィンランドを訪れた友人に」
副支部長　矢田和弘

「まだ見ぬ第５世代・第６世代の建築家たちへ」
副支部長　山田　暁

■第４回　中国支部大会
「ＪＩＡ中国支部建築家大会２００９in 下関」

・実行委員長コメント
大会実行委員長　三村夏彦

・内容報告

■第１回　中国建築大賞

・審査報告
教育・事業委員会　委員長　宇川民夫

・総評
審査委員長　内藤廣（建築家）

・受賞作品紹介

■活動報告
中国支部
岡山地域会
広島地域会
山口地域会
島根地域会
鳥取地域会

■寄稿　広島地域会　中薗哲也

■ＪＩＡ中国支部組織図

■ＪＩＡ中国支部会員リスト

2009 年度　中国支部　総括

社団法人日本建築家協会中国支部長　村重保則

世界的な経済不況の中、建築基準法の改正、改正建築士法の全面実施を経て、建築業界にとって過酷ともいえる状況が続いている。しかし反面、建築家にとってこの状況に対応した建築に対する社会の欲求を見据え、進むべき方向を打ち出せる好機ともいえる。

今年度は支部長としての任期も最終年となり、自分なりの総括の年でもあった。就任以来進めてきた支部内のインフラ整備（財務基盤の立て直し・事務局整備・組織の改編など）もほぼ落ち着いたように思う。支部会員と地域社会との交流・研修を深める場として各地域会が主管となる４回の支部大会の開催、若手技術者や学生を対象に支部会員が得意分野で講師を務める「建築家養成講座」の開講、中国地方の地域文化を形成する優れた建築物を表彰する「JIA 中国建築大賞」の創設など様々な事業に取り組んできたが、いずれも緒に就いたばかりである。これらの事業が新体制の中でも継続され、この地域の人間形成に役立ち、ひいては地域社会の糧となれば幸いである。

ここ最近他の支部を訪れると「中国支部」の成長ぶり、活況が話題に挙がる。なかでも会員や賛助会員の増強拡大については各地域会ごとに頑張って戴いた結果、会員数が他では見られない伸びを示している。また賛助会員についてもどこの企業も厳しい中、交流部会の方々の働きかけがあって今までにない会員数となり本当に有難いことと思う。JIA の会員となる「利」は薄いかもしれないが、「魅力」があると思われることが出来たのなら素晴らしいことだ。

支部長はその任期中本部理事を兼任する。ほぼ月１回のペースで理事会が開かれ、現在は WEB 会議に形を変えているが、議論にこだわるあまり JIA の方向性を明確にすることがいまだに出来ないのが歯がゆい思いである。本部からの上意下達に従う時代ではないが、せめて組織としての目指す処を示してほしい。

次年度は「第 24 回　世界建築会議 UIA2011 東京大会」開催の年でもある。これに時期を合わせ、関連団体と共催し広島で関連事業を行おうと実行委員会が組織された。支部長の立場は離れるが、開催に向けた努力を続けたい。最後にこの場を借りて今日までご支援・ご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げたい。そして、次期山田支部長にこれからの支部運営の更なる発展を期待し、出来る限りの協力をしたいと思っている。

フィンランドを訪れた友人に

中国支部副支部長　矢田和弘

フィンランドを訪れた友人に、貴重な写真を撮っていただきました。

それはフィンランドの世界的な大建築家、1898 年生まれのアルヴァ・アアルトが設計した、ヘルシンキの湾岸に建つ「エンソ・グートツァイト・ビル（1959～1962 年）」の補修工事現場の様子を写したものです。（説明文は 3 ヶ国語）

私が大学在学中、アアルトのもとでの修業後間もない恩師から、アアルトのアトリエでの様子などよく聞いていました。特にフィンランディア・コンサートホールと会議場を含めるヘルシンキセンター計画の発表を国会でアアルトが行なったときには、恩師などアトリエのスタッフ全員が感動して傍聴した時の話など今でもよく覚えています。

他にもフランク・ロイド・ライト、ホセ・ルイ・セルト、ポール・ルドルフなど世界の巨匠建築家たちから直接指導を受けた専任の教師の話しを聞くこともあり、それぞれの先生から数々の刺激を受けました。1960 年代前半の当時の私たち学生には、欧米の建築家は大きな存在でした。

いただいた工事現場の写真を見て、建築家アアルトと、この建築について紹介した大きな看板が掲げてあることに、とても感動しています。

欧米では、建築家は社会的な評価と国民からの尊敬の念がとても高く、日本とは比較にならないと、当時先生方から聞いていましたが、このような写真を見ると欧米と日本との文化に対する意識の違いを改めて痛感しました。例えば、フランスの法律では、「建築は文化」の表現であるとしています。日本では建築のことを、特に政治家などが「ハコモノ」と言ったりしていることなど恥ずかしい限りです。私たち日本の建築家も日々ガンバッて、早く日本にもこのような風景が日常的にみられるようにならなくてはと思います。

そのひとつとして、昭和 25 年に戦後復興を目指し制定された、技術を規定することに重点がおかれた現在の日本の「建築関連法規」を見直すとともに街並みとか建築のあるべき姿や、建築の基本理念を定めた「建築基本法」の制定を実現させるべきだと思います。

日本建築家協会（JIA）本部に設けられた「建築基本法特別委員会」の委員のひとりとして、私も歴史や風土を尊重し、次代に継承する優れた建築・都市文化創造を目指しながら活動することになり、ほぼ毎月開催される委員会で議論を重ねています。

まだ見ぬ 第５世代・第６世代の建築家たちへ

中国支部副支部長　山田　暁

ライト兄弟が空を飛び、人が月に降立った時を経て、スタートレックの世界が来るのか来ないのか。

収穫、生産、労働の対価としての貨幣から、ＣＯ２削減枠とかの架空の価値を造り、お金がお金を産む仕組みを造り、ますますバーチャルになっていく経済活動の世界。

もうすぐ来る、脳から直接インターフェイス可能なインターネット世界。

これから産まれてくる建築家達はどのような世の中で生きていくのでしょうか。

我われの世代は、右も左も学生運動に燃えていた時代に大学生活を送り（今の若者には実感出来ないでしょう）、社会に出てからは自分の可能性に挑戦する、それなりのチャンスに恵まれていて、ひたすら建物を造って今日までやってこれた世代です。みんなが目標とする憧れの建築家を持つことが出来た世代です。もちろんオイルショック等々の不況があり、それを潜っても来ました。

さて、君たちの時代の建築家像はどの様なものに成るのでしょうか？

実はあなた方の時代はすでに始まっているのかも。世の中、変わっていくものと変わらないもの、変わって良いものと変わってはいけないものがあります。我われは日本の原風景を壊して、そこへ新しいものを造り出す作業をしてきました。ほぼやり尽したといえるでしょう。冒頭に述べたように時代は進歩していきますが、今までとは違った形で進むでしょう。変わらないもの、変わってはいけないものが重要に成ってきます。日本の人口が減少する時代では当然価値観も変わってきます。新しい価値感に基づいた理念を生み出す必要があります。

「再生」「リノベーション」「エコ」「環境」「まちづくり」等々。君たちはパイオニアになれる時代を生きていくのです。ガンバレ、その時代はもう始まっています。

第４回ＪＩＡ中国支部建築家大会 2009ｉｎ下関

大会実行委員長　三村夏彦

中国支部では昨年度から「環境再生」というテーマを掲げ、活動を行なっている。２００８年度末には、第１回環境再生フォーラムを萩市で開催した。旧萩市街地は江戸期の町割道筋がほとんど残存し、近代和風建築の保存再生による町づくりがテーマであった。今度、中国支部大会が山口県の下関市で開催されるにあたり、第２回環境再生フォーラムを行なう事となった。

下関市は、明治から戦前まで西洋建築の影響を受けた近代建築が、県下で最も多く残っている。官公庁施設、銀行、商館、土木遺構等であるが、その一部は保存再生され利用されているが、放置された状態のものも有る。この支部大会準備中のさなか１０月２８日にも、下関が捕鯨基地として栄えた象徴的な旧大陽漁業本社ビル（１９３６年築）の解体決定が、新聞に報じられた。個人にとっても地域共同体にとっても、精神的価値のある近代建築群や古民家等の再生を考える事は、自分達の住む地域の歴史や文化を見つめ直す事になり、さらには将来のまちづくりへとつながっていくはずである。

又下関市庁舎は１９５１年に、全国から多くの著名な建築家も参加（１４３名）し、戦後最大の全国コンペにより建築された。審査員は岸田日出刀委員長以下、高山英華、谷口吉郎、坪井善勝、前川国男である。現在、その市庁舎をめぐり、保存再生をすべきか、解体し他地に新築すべきか、大きな議論が沸騰している最中であった。

環境再生フォーラムでは、下関市長にも参加していただき、出江会長共々熱い議論がかわされた。又今年度中国建築大賞が村重支部長により創設され、入賞発表も行なう事ができた。審査委員長の内藤廣さんに「地域と建築」という我々にとって大切なテーマで、貴重なお話をいただけたのも、幸運であった。

支部大会を終えて、会場の海峡メッセの外に出た時に、金属やガラスの現代建築群に囲まれて、旧山陽ホテル（辰野葛西事務所設計）のレンガ色の外観が、心地良く目に沁み入って来た。関門海峡を通して歴史が積み重ねられた下関には、残さなければならない貴重な財産である。

■大会概要

日時：２００９年１１月２７日（金）
会場：下関商工会議所３階大ホール
日時：２００９年１１月２８日（土）
会場：海峡メッセ下関（山口県国際総合センター）
　　４階イベントホール
後援：山口県、下関市、（社）山口県建築士会、
　　（社）山口県建築事務所協会
　　（社）日本建築学会中国支部山口支所、
　　（社）日本構造技術者協会中国支部山口地区
　　（社）日本建築積算協会中四国支部

□プログラム

２７日（金）

13:00	開会
13:20-14:50	基調講演「伝統と現代建築」
15:00-17:30	環境再生フォーラム 「近代建築とまちづくり」
18:00-20:00	懇親会

２８日（土）

9:00-10:00	デザインフォーラム
10:00-11:00	中国建築大賞２００９入賞発表
11:00-12:30	講演「地域と建築」
12:30-12:50	交流部会 PR タイム
12:50-13:00	閉会
13:30-17:40	エクスカーション

■環境再生フォーラム「近代建築とまちづくり」

基調講演・パネリスト
　古川　薫：作家
　十河義典：山口近代建築研究会事務局長
　　山口県土木建築部
パネリスト
　中尾友昭：下関市長
　出江　寛：ＪＩＡ会長
コーディネーター
　佐藤正平

（パネリストの方々）

基調講演は「新しい空間としての町づくり」として古川薫（作家）に下関の建物の現状や他県での地元建築家による実例を交え新しく伝統を生かした都市空間についてご講演いただいた。また、古川氏は日本で初めて文化のための１％のシステムを実践された神奈川県の長洲一二知事を例に下関市における文化のための１％システムの実践を提言された。引き続き、山口県の近代建築、近代化遺産を探り、現代に活用する方策を検討する活動をされている十河義典氏（山口近代建築研究会事務局長）にこれまでの活動成果についてご講演いただいた。

その後、中尾下関市長と出江ＪＩＡ会長をパネリストに加え、下関のまちづくりと保存についての討議に入った。
コディネーターの佐藤氏より現下関市庁舎建設（コンペ）の歴史的な経緯の説明があり、それを受けて中尾市長が市役所移転問題の現状と市長の目指す下関のグランドデザインについてあつく語られた。
海峡の街である下関は、地の利を生かし海峡に面する地域を中心市街地として活性化させる事が重要である。レトロな建物に囲まれる唐戸の交差点からウオーターフロント側の再開発がそれにあたる。また、多数の近代建築が現存する事は下関の自慢でもある。今後は下関単独ではなく対岸の門司との協調による飛躍も視野に入れている。中央集権から地方分権の時代へと変わりつつある現在、ますます下関の文化性を高めていく必要性を感じている。

十河氏は、ご自身が行われた宇部銀行のワークショップの経験から残す（保存する）べきか意識する以前に、住民は人に愛されてる建物、使い続けられている建物の重要性を知っていると述べられた。

出江会長からは、その時代を立証するためにはその時代を代表する建物を保存する事の重要性が強調された。
最後に出江会長の「建築家も文化・美意識をもってまちづくりを」で環境再生フォーラムを締めくくった。

（フォーラム会場内の様子）

■ デザインフォーラム

第１回大会（広島）より恒例となったデザインフォーラムを開催した。コメンテーターとして出江寛氏（ＪＩＡ会長）、倉森治氏（名誉会員・元中国支部長）、村重保則氏（中国支部長）の以上３人の方にお願いした。
プレゼンテーターの石丸和広氏より以下４作品のプレゼンテーションが行われた。

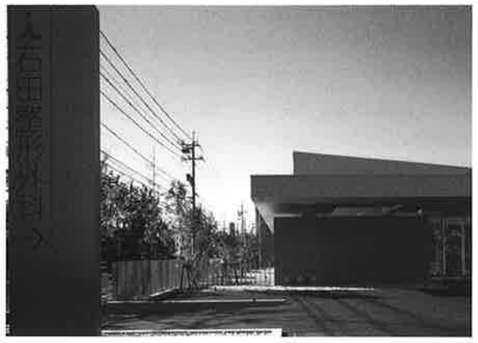
残念ながら時間の都合上、コメンテーターとプレゼンテーターとのやり取りをあまり行うことが出来なかったが、プレゼンテーターの作品に対する考えやそれぞれの物語を聞くことが出来た。

（デザインフォーラム会場の様子）

01.　サンルート徳山クリスタルチャペル

03.　I’m　Garden

02.　石田整形外科



04.　大津島馬島待合所

■ 講演「地域と建築」

建築家　内藤　廣

有史以後、世界の人口はルネッサンス頃まで一定でしたが、その後増え続け、特にこの数十年で急激な人口増が続き、AD2100 年には 70 億になると言われています。一方日本は現在が最高で、100 年後には日本人の人口はその半分近くに減ると予想され、世界的にもとても特異な現象です。

これは、今後日本では世の中の仕組みが大きく変化する事を意味し、建築家と社会のあり方もこれまでとは異なる内容にならざるを得ません。しかし、建築家だからこそできる事はたくさんあります。仕事として成り立つかどうかは分かりませんが、それは多岐にわたると考えられます。

これから映像を観ていただきながら、かつては杉の一大生産地であった九州日南市の JR 駅舎と駅前広場実現まで、地元の人たちと一緒に取り組んできた事をお話しします。

駅舎の建築作品はさておき、地域の小学生から大人まで多くの人たちが、このプロジェクトにどう関わり、取り組んできたかを読みとって欲しいと思います。（以下映像の説明）

このプロジェクトをすすめるにあたり、数名のエキスパートの参画がありました。この人たちの役割とその能力は大変すばらしく、この人たちのアイディアや想い、また、参加した多くの人たちに学ぶこともたくさんありました。子供たちも交え地域の人たちと山中での木の観察、ベンチなどのアイディアコンテスト、小学生と一緒のワークショップをはじめ、様々な試みをやり徐々に盛り上がってきました。１０年前に初めてこの地を訪れた時の光景です。このように街のメイン通りは閑散としていましたが、オープニングセレモニーの時には駅前広場に、一体どこからこんなに人が集まってきたかと思うほど、人・人・人で広場が埋まる大盛況で、その後の「まちづくり」につながるパワーを感じました。

この事例のように、「まちづくり」につながる活動の原動力の中心には、先ず建築家をおいて他にふさわしい者はいません。総合的な能力を備えている建築家だからできます。

建築家は、ぜひ街に出て、地域のために市民と一緒に地域の様々な問題と取り組むべきです。その中から「地域と建築」との関わりが生じ、建築家だからこそ能力を十分に発揮する場を開くことができると思いますので、JIA のみなさん頑張って下さい。と締めくくった。

島根地域会　矢田和弘

第一回　ＪＩＡ中国建築大賞２００９
審査報告

教育・事業委員会　委員長　宇川民夫

「第１回JIA中国建築大賞2009」は村重支部長の念願の事業として、JIAの建築家憲章の理念にもとづき、中国５県に造られたすぐれた建築デザインや建築文化や環境形成に寄与した建築作品を設計した建築家を顕彰する目的で、この度「JIA中国建築大賞」を初めて企画されました。

2008年６月に第１回各委員会が広島で開催され、私はＪＩＡ岡山建築家の会の事業員会委員長として軽い気持ちでこの会議に出席しました。はからずもこの会議にてＪＩＡ中国支部の教育・事業委員会　委員長　に任命され、担当事業が支部として始めて創設される「第１回JIA中国建築大賞」の大事業となり任期の間とまどいの連続でした。

当初は2008年に実施すべく、早速各ＪＩＡ支部や団体での類似建築賞の資料収集、事業の企画、審査委員長の候補の選定、予算、パンフレットの制作など多忙になりました。審査員長には、支部役員の方々からも賛同を得て、東京大学大学院教授・建築家の内藤廣先生にお願いすることにしました。この年は内藤廣先生も大学が多忙で当初お断りになられましたが、次年度に順延しても中国建築大賞の審査委員長は内藤廣先生にお願いしたいと再交渉をし、2009年に「第１回JIA中国建築大賞2009」として開催の運びになりました。

応募建築作品は最近１０年内に竣工した一般建築部門・住宅部門の２部門とし、審査委員長　建築家　内藤廣先生、また中国支部の建築家を代表して審査員には　建築家　倉森治先生にお願いしました。全国の建築家から一般建築部門は14作品、住宅部門は14作品の多数の応募があり、１次審査（提出ファイル審査）通過作品に一般建築部門は２作品、住宅部門は６作品と多くなりました。内藤先生は忙しい中、建築作品の審査は写真コンテストでないので、できる限り多くの現地の建築を見て決めたいと、予定より多くの建築作品を選ばれました。

１次審査後９月24日に山陰、10月20日、21日に山陽にて審査委員長・審査員による現地審査の立会いをしましたが、応募者と審査委員との語らいを楽しく拝見し有意義でした。

厳正な審査の結果、審査委員長　建築家　内藤廣先生と審査員　建築家　倉森治先生より　一般建築部門　建築大賞１作品、優秀賞１作品、住宅部門　住宅大賞２作品、優秀賞４作品が選ばれました。

11月27日、28日に開催されたJIA中国支部建築家大会IN下関2009にて入賞発表を行い、審査委員長　内藤廣先生の講評と大賞受賞者による作品説明を行いました。受賞者の表彰式は2010年４月の中国支部総会にて執り行います。

現地審査では、内藤廣先生は応募された若い建築家に直にお褒めや励まし、ご指導をいただき今後の糧になったと思います。また、多くの応募者からこうした機会が得られたことへの感謝のメールや連絡をいただきました。

無事、こうした大役が果たせられたことご協力、ご支援いただいた皆様に感謝申し上げます。今後とも中国地方に「JIA中国建築大賞」が根付き、受賞された建築家の方々が活躍されることを期待します。

（受賞者プレゼンテーション）

第１回JIA中国建築大賞2009　受賞者作品リスト

□一般建築部門―建築大賞

まなびの館ローズコム

（福山市中央図書館・福山市生涯学習センター）（広島県）

設計者　江副　敏史　㈱日建設計

□一般建築部門―優秀賞

旧日銀岡山支店「ルネスホール」（岡山県）

設計者　佐藤　正平　㈱佐藤建築事務所

□住宅部門―住宅大賞

黒の家（岡山県）

設計者　神家　昭雄　神家昭雄建築研究室

HOVER HOUSE（広島県）

設計者　中薗　哲也

ナフ・アーキテクトアンドデザイン(有)

□住宅部門―優秀賞

黒谷の家（岡山県）

設計者　大角　雄三　大角雄三設計室

FLAT（広島県）

設計者　大江　一夫　マニエラ建築設計事務所

デッキテラスの家（島根県）

設計者　原　　浩二　原浩二建築設計事務所

階段の家（島根県）

設計者　三宅　正浩

㈱Y+M　desing　office

審査委員長　内藤　廣

（建築家・東京大学大学院教授）

審　査　員　倉森　治

（建築家・JIA名誉会員）

■総評

審査委員長　内藤廣（建築家・東京大学大学院教授）

新しい賞は、この地域の文化を醸成するものでなくてはならないと思います。地域を励まし、地域の誇りとなり、地域を元気づける、そんな賞に育ってほしいものです。

初めての賞ということもあって、個性的な作品が多数寄せられました。どの作品にも熱が入っていました。一次選考は書類ですが、添付された写真では本当のところは分かりません。じっくり眺めて、最後は勘で決めるしかありません。事務局に無理をお願いして、二次選考はすべて現地を見せてもらいました。ひとことでいうと、とても勉強になりました。どの作品も密度とアイデアがあって素晴らしいものでした。

現地審査の結果、今回は二次審査に進んだものはすべて優秀賞に相当すると判断しました。おなじく審査に当たった倉森さんも、わたしと同じような感想を持たれたはずです。優劣付けがたい中で、私自身がその場所にもう少し居たい、もう一度訪ねてみたい、そういう感じを強く受けたものを大賞に選びました。

もとより、賞は応募する側と審査する側の共同作業です。たくさんの応募が集まることで、より高いレベルで競い合う風土が生まれます。切磋琢磨する場が生まれたわけですから、よりたくさんの応募が集まることを期待します。

■ 受賞作品講評

審査委員長　内藤　廣（建築家、東京大学大学院教授）

□一般建築部門—建築大賞

まなびの館ローズコム（福山市中央図書館・福山市生涯学習センター）（広島県）

設計者　江副　敏史　㈱日建設計

全体計画からディテールまで、あらゆるレベルでよく練り上げられた密度の高い作品。敷地の性状を読み込み、北面と東面に深い庇を設けて日射を避けるとともに開放性を持たせたことは秀逸な試みといえる。格子梁を使った構造的解決，省エネルギーに配慮した設備計画、どれも単なる技術に留まらず、この場所の価値を高めることに寄与している。こういう完成度の高さは、ラージファームならではの蓄積の上に成り立っていることを感じた。ひと言でいえば、大人の建物、成熟した建物と言えるだろう。この街と地域住民の誇りとなり得る、さらには全国に向けて発信し得る価値のある建物として高く評価したい。

□一般建築部門—優秀賞

旧日銀岡山支店「ルネスホール」（岡山県）

設計者　佐藤　正平　㈱佐藤建築事務所

新しい法制度の中で近代建築遺産を残すことには、さまざまな困難が付きまとう。全体の印象を巧みに残しながら、耐震性を増し設備的な補強をするという困難な課題を見事に解決している。アプローチをサイドにとって新設し、回り込むように入る配置も巧みだ。旧銀行の主空間には、構造補強のための四本の柱が立っている。これを設備的にも利用し、古い保存部分と対比的に新しいデザインを採用したのは正解だろう。これも保存するデザインに敬意を表するやり方だと思った。この街の記憶のひとつである建物を、新たなシンボルとして再活用しようという姿勢と執念、その成果を高く評価したい。

□住宅部門—住宅大賞

黒の家（岡山県）

設計者　神家　昭雄　　神家昭雄建築研究室

小住宅として最良の建物。建築家の自邸は、自らの実験場でもある。通常ならその試みの勇み足が目立つものだが，この建物ではそれが絶妙のバランスを保っており，居心地の良い空間を作り出している。特に、高さを低く抑えた居間の窓から眺める田圃の風景は素晴らしく，それを際立たせる建具のディテールも秀逸である。開口部のプロポーションも含めて、この風景の切り取り方にこの住宅の在り方のすべてが集約されている。外部の広がりを内部へ呼び込むこと，それこそがこの場所のかけがえのない新たな価値を創出している。

□住宅部門—住宅大賞

HOVER HOUSE（広島県）

設計者　中薗　哲也

ナフ・アーキテクト　アンド　デザイン(有)

新しい技術と表現に果敢に挑戦した作品。鉄骨造で床を宙に浮かせ、コスト軽減を図るとともに、斬新な住宅の在り方を提示している。建物を浮かすことで、設備配管に対する合理化も図っている。この住宅の主要な構成要素である亜鉛ドブ漬けの塀は、一見ぶっきらぼうに見えるが、微妙に白濁して質感充分で、建物が置かれた周辺環境の中では，建物のボリュームを消すとともに、個性的でありながら周囲に対してきわめて親和性の高い材料となっている。テラスと一体になった空間構成は，重量感のある塀に囲われて、開放的な空間構成を可能にしている。いずれにしても、この住宅の空間は新しい。

□住宅部門—優秀賞

黒谷の家（岡山県）

設計者　大角　雄三　大角雄三設計室

古民家再生を旗印にしたグループの活動は、単に保存に精を出すだけではなく、多くの貴重な建築的エッセンスをそのプロセスで学び会得していることを、この住宅を見て強く感じた。この住宅は、古民家再生をきっかけに、それを活用し、展開し、増殖し、いまだにその動きを止めていない。施主の意欲にも敬意を表するが、それを忍耐強く受け止め、けっしてどのような局面でもクリエイティビティを失わない作者の強靭な精神に敬意を表したい。古民家再生は、ひょっとしたら建築という価値の再考と再生にも繋がるのではないか、そんな可能性すら感じることが出来た。

□住宅部門―優秀賞

FLAT（広島県）

設計者　大江　一夫　マニエラ建築設計事務所

大好きな自動車と暮らす生活、なんとアブローマルな住まいかと思いきや、ご主人はカーデザイナー。仕事と生活が絶妙に一体になった住まいだった。中庭を介して、奥に配置された居間と、車の部屋、陶芸をやる奥様の作業部屋、それらが心地よく対話しているようだ。敷地は住宅団地の端に位置し、瀬戸内海まで遠望を見渡せる絶景なのだが、一見簡素な折板屋根の簡素な陸屋根の平屋建てである。景色ばかりに目がいくのではなく、あくまでも生活そのものにこだわった構成が好ましい。

□住宅部門―優秀賞

デッキテラスの家（島根県）

設計者　原　浩二　　原浩二建築設計事務所

正方形の端正な平面だが、よく見ると居間の幅がかなり小さい。本当にこれで住めるのだろうか、と不安な気持ちで現地を訪れた。ところがなかなか快適な空間。プライベート化されたテラスと一体になっていて、これなら使えると思った。一階のプライベート空間の天井が異様に高いのと対照的に、居間のある二階の天井高が極めて低く抑えられているのが印象的だった。これもテラスとの関係でなかなか良い効果を生んでいる。やはりこういう微妙な空間の工夫は写真では分からない。細かなディテールの処理も丁寧で、端正な住宅だった。

□住宅部門―優秀賞

階段の家（島根県）

設計者　三宅　正浩

㈱Y+M　desing　office

なかなか魅力的な思い切った形をしている。大型タイルを使った階段状の形態、さらにその階段の隙間がスリット状のトップサイドライトになっている。おまけにそれを支えているのが木造ときている。こんなディテール、僕だったら怖くてとても出来ない。島根のような雪の降る場所でこのディテールでは問題があるだろうな、と半信半疑で現地審査にいった。現地審査というのは行ってみるものですね。しっかり出来ていて、雨漏りもしていない。このディテールを支える技術的なケアをしている。空間も見たことのないものだった。

活動報告

□ ２００９年度通常総会

2009年4月28日（火）ホテルセンチュリー２１にて松本敏夫ＪＩＡ副会長を来賓に迎え通常総会が開催された。2008年度の事業報告と収支決算、2009年度の事業計画と事業予算案が承認された。

（通常総会）

□ 記念講演会

通常総会後、同場所に於いて松本敏夫ＪＩＡ副会長が「ＪＩＡの現状」と題し以下の４点をテーマに講演を行った。

設計業務環境改善

まず、確認申請に契約書を添付すると言う運動を地位会単位で各行政に回って頂き、地方行政から国に働きかけて行きたい。そして、入札制度の低価格のダンピング問題に関して公正取引委員会へのアプローチを行いたい。また、過去何年間の実績、あるいは会社の資本金はいくら以上、であるとかを最低条件にしてプロポーザルを行っている行政が多く、これでは絶対に優秀なアトリエ派が、特に若い方の参加が出来ない。これを何とかしたいと思う。

建築家資格制度

ＪＩＡとしては、三段階方式で登録建築家をまとめて行きたい。まず、第一段階は内部で試行段階、第二段階は社会制度としてオープン化、第三段階になってＪＩＡ本来の目的である法制化、そこが一番ネックになっている。建築士会は、現時点では法制化を目的にしていない。あくまで社会制度であるとの考えが、中々連携が取りにくい理由です。何とか打破したいが色々な意見があり前に進まない状態である。

また、オープン化については、第三者機関を作って進めたいと思いますが、財政的な問題、内部での第三者性を確保できるかという問題もあり、今の認定評議会を少し整理して体制の確立をめざし、しばらく運営を行うと言う事でとにかくオープン化にこぎ着けたい。

ＪＩＡの組織・財政問題

非常に効率の悪いことを行っている。近畿支部の事務局は、私が随分改革をして経費を落としてきた。これは、自負しているだけで、現実はどうかわかりませんが、そういう所から見ると非常に本部はあまいと思います。そして来年も赤字予算を組まなければならない状況です。次の会長のリーダーシップをもって全ての情報を開示して整理を行った上で、会費の値上げを行うしかないのかなと思っている。

また組織として社会的意味をなしているのか、支部間の交流、地域の自主性と市民との接点、他会との協調等、議論すべき点は多い。

法人形態

現在の状況は、機関紙で法人形態の問題として連載している。5年後の2013年11月30日までに一般社団か公益社団かのどちらかを選択しなければならない。もし選択しなければ解散になり、その時持っていた社団法人の財産は全ての公益事業に資する人たちに寄付を行う等をしなければならなくなる。今年の総会で報告をし、来年の総会には最終的な方向を示す予定である。今後、支部、地域会に公益事業と言うものの案内と同時に実態調査を行うのでそれぞれの考えをご報告頂けたら、ひとつの判断基準になると思う。

（講演風景）

中国支部常任幹事　久保井邦宏

岡山文化セミナー

岡山県内で活躍中の芸術家・作家の方を招いての交流会を行い、これから仕事上でも私達ＪＩＡ会員とのコラボレーションに継ながるような関係づくりに努めている。
現在１３回実施し、今後も回数を重ねながら、地域の文化を根差し広めて行く活動として継続して行きたい。

よみがえる岡山城下勉強会

岡山城や旧城下町の歴史的まちの遺産を後世にしっかりと伝えていきたいと、まちのシンボルである岡山城を復元することを目指して、様々な勉強会を行っている。
今年度は、岡山市の主催する市民まちづくりワークショップ「よみがえる岡山城下」への参加も出来て、市民とも良い交流が図れてきた。

建築関係他団体との交流

８月１８日（火）岡山県造園建設業協会と意見交換会を開催した「自然共生、風土に対応した環境づくり」や「建物緑化への取組み」などをテーマに活発な話し合いが持たれ、今後業務の上でもコラボレーション等交流を図っていく方針が打ち出された。

暮らしと木のフェアで消費者との交流

この事業は、倉敷木材で毎年春と秋の２回行われていて、２日間で３千人もの参加者が訪れる県下最大級規模の木のイベントです。２５回目となった今回はＪＩＡコーナーを設けてもらって参加。住まい、耐震の相談も受けながら消費者との交流を図った。

建築講演会

地方の都市で建築を学んでいる学生にとっては、なかなか建築家の講演を聴く機会にめぐまれない。ということで、岡山地域会では毎年１回、都市部で活躍しているＪＩＡ会員の中から講師にお願いして、ＪＩＡ建築講演会と題して開催している。今回は中村拓志氏をお招きし、「環境に応答する建築」をテーマに近作の取り組みについてのお話を伺い、参加者には大変好評を得た。（参加２５０名）

第４回福山建築文化セミナー

１１月２１日（土）に福山市のまなびの館ローズコムにおいてセミナーを開催した。この企画も４回目を迎え福山のイベントとして定着しつつある。今年は、大阪大学大学院教授でデザインディレクター、医学博士でもある川崎和男氏を講師に招き「建築からの逃走」の演題で講演して頂いた。
伝統工芸品から人工臓器、宇宙空間の装置化まで幅広く、研究・実務活動を行う同氏のプレゼンテーションに会場が目を見張った。２５０人を予定していたが立ち見もでる盛況であった。

住まいづくりセミナー

広島市と建築関連の１５団体で組織する広島住まいづくり連絡協議会の事業として本年度、１１月と３月に計３回のセミナーを行った。第１回のセミナーでは会員の平田欽也氏が講師を務められた。

建築とプロダクトデザインの２１世紀を考える

□テーマ
　建築とプロダクトの功罪を語る－１
●基調発表者：
　小林祐治（ＪＩＤＡ）「デザインの決定者は誰か？」
　遠藤吉生（ＪＩＡ）　「建築デザインの現在」
●フリー討論会
　ＪＩＤＡ
　福田成徳／田中宏樹／曽根芳久／鈴木英樹／小林祐治
　ＪＩＡ中国支部広島地域会
　佐々木著／仲子盛進／古本竜一／土井一秀／遠藤吉生
●モデレーター　山田晃三（ＪＩＤＡ理事）
　２００９年１０月１４日（水）
　会場：ひろしま美術研究所

日本インダストリアルデザイナー協会（ＪＩＤＡ）と日本建築家協会（ＪＩＡ）とのコラボレーション討論会として開催され熱い議論が交わされた。

住まいの情報プラザ

昨年に引き続き、広島県が主催するひろしま住生活月間の一環として１０月２４日２５日の両日、広島県・広島市・国土交通省中国地方整備局と建築関連１１団体によるイベント「住まいの情報プラザ」に参加した。今年は「末永く人も住まいも健やかに」と、長期優良住宅を意識したテーマとなった。エコ関連の模型や耐震模型の実演などを体感してもらうことにより住宅・居住環境・住まい方について、広く考える機会を提供すると共に相談会やセミナーを通じて情報を発信した。

建物見学会「松園」

６月に新入会員の江角俊則会員の設計による「松園」の特別宿泊棟と浴室棟の見学会を行った。客室棟、浴室棟とも茅葺の屋根であり、内部仕上は紙、土、石といった伝統的な素材を用いて非日常的空間が演出されており、その使い方や空間の構成について設計者の説明を受けながらの研究会であった。

海士中学エコ改修についての研究会

８月に一昨年度行われた隠岐・海士町の「海士中学校エコ改修」のプロポーザルにおいて選ばれた山根秀明会員を講師に海士中学校のエコ改修についての研究会を行った。研究会終了後の納涼懇親会を設け、会員相互の親睦を図った。

寄稿　第４回福山建築文化セミナー
『建築からの逃走』　川崎和男

マイケル・ジャクソンの“ Beat It”が大音量で流れ始めると同時に、大小３面のスクリーン に映し出された川崎和男氏のＰＶで、講演会『建築からの逃走』が始まった。 講演会というよりは、これからミュージシャンのライブでも始まるのではないかというようなそのプレゼンテーションに、会場の空気が一瞬高揚した。 このＰＶは、もちろん川崎氏がこれまでにデザインされた作品が紹介されているムービー で、エフェクト機能を多用した非常に美しい映像で、Keynote で編集されたということだった。 いまだにPowePoint さえ触れたことのない私は、まるで映画館で映像を見ているような気分にさせられた。 ちなみに、PowePoint を日本で一番に使われたのは川崎氏で、しかもこの福山の地で行われたデザイン会議でプレゼンテーションされたということだった。 川崎氏といえば、人工心臓から伝統工芸品やロボット、原子エネルギーまでも幅広く研究・ 開発されている。そのボーダーレスな活動範囲の中で、鋭く、時に過激な洞察に、学生の 頃から非常に興味を引かれていた。作品も興味深いものが多く、とりわけ FORTS.TV は、 私が設計した店舗や住宅にもいくつか採用させてもらっている。

講演会は、 川崎氏の目まぐるしいほどの意欲的な活動を背景に、 刺激的で鋭い切り口から、 ありとあらゆる分野において、自身の考えや批評を加えながら進められ、あっという間に 時間が過ぎていった。 過激さもまだまだ顕在で、建築家・タレントデザイナー達が、この講演会で瞬殺されていた。半分ジョーク半分本気の軽快なコメントをされたときなどは、場内が笑いに包まれることも少なくなかった。

当然「建築」に的を絞った話もされた。大学の建築教育に関しては特に時間を割かれて、とくに設計をする際のツールに関しては熱く話をされた。今は少し状況が変わっているかもしれないが、少なくとも国立大学ではＴ定規をつかって設計の授業が開始され、カッターナイフとスチレンボードで模型を作成し、ボリュームを 確認する。この状況は東京大学でも例外ではない。一方アメリカ・ヨーロッパの大学では、最先端の 3DCAD を使って設計し、どんな形でも切り出せるＰＣ制御のレーザーカッター で模型を作成する。このような教育が続くようでは、世界コンペで日本の建築家は勝利できないという内容だった。 しかし一方でこういう話もある。ついこの間、私がＮＨＫで放送されているのを偶然見ていると、究極的平滑な平面を金属の板で作っている職人の特集だった。なぜこのようなシンプルで精度の必要な作業を、機械を使って行わないかというと、機械を使うとその熱で 金属が膨張して、ミクロの世界でいうと平滑にならないらしい。その職人は体とこれまでの経験で得た勘によって、膨張しない程度の力加減を判断し平面を作り上げるという。その平滑さは決して機械では成し得ない精度らしい。「人間の脳は機械にくらべると精度は悪いが、非常に高度な判断が出来る」ということだった。 私は実務で設計する際、もっともシンプルで簡易であると思われる CAD を主に使用してい る。CAD ソフトは他業種とのコミュニケーションツールであるとも思っているので、誰にでも簡単に扱える言語であるほうがより正確に、より多くの人に伝わり、結果としてより精度の高い建築になると考えているので、敢えてシンプルな CAD を使っている。 よく聞く言葉ではあるが、人間は道具を使うということで他の動物と差別化され、それに よって進化し続けてきた。川崎氏はその道具を進化させることで、人間だけでなくそれを 取り巻く環境が抱える難問に挑戦している。 講演の最後に、現在携わっている仕事の内容についてコメントされていたが、あまりにも大きくて難しい問題ばかりに直面させられていると。 川崎氏は、デザインによる世界平和構築をめざして「Peace Keeping Design (PKD)」というプロジェクトを提唱され、感染症問題解決のための「ワクチン接種のデザインシステム」 や治療優先度を示すトリアージタグのデザイン等にも精力を注がれている。 「デザイン」という言葉が、世の中ではあまりにも簡単に使われているが、真の意味で「デザイン」が意味するものは底なしに深く、重たい言葉であると、この講演を聴いて改めて感じた。

広島地域会　中薗哲也

2008・2009年度　㈳日本建築家協会中国支部　委員会組織一覧

執行役員	支部長	村重　保則	(山口)	幹事	田中　輝幸	(山口)	
	直前支部長	穂石　友伏	(島根)		堤　敏明	(広島)	
	副支部長	矢田　和弘	(島根)		上定　正張	(広島)	
	副支部長	山田　誠	(岡山)		高田　一	(岡山)	
	地域会長		各　県		笠川　隆久	(岡山)	
	会計幹事	久保井邦宏	(広島)		尾川　陽康	(島根)	
	副事務局幹事	高志　俊明	(広島)		福田　修	(鳥取)	
	監　事	酒井　隆郎	(広島)				
		植野　勇樹	(鳥取)				

担当	委員会			委員		活動内容
総務部担当副支部長（矢田）	・総務・広報委員会	委員長	堤　敏明	稲富　強司	(山口)	・金融事業計画　・総会　・その他大会支援
		副委員長	大石　雅弘	堤　敏明（幹事）	(広島)	・企画運営　・対社会的行動
				大石　雅弘	(岡山)	・他団体との連絡・会員。賛助会員増強活動
				宇佐美　浄	(島根)	・アニュアルレポート作成
				木下　正則	(鳥取)	・ホームページ管理　・25周年記念
	・集積密度格付制度委員会	委員長	黒川　隆久	宗見　龍一	(山口)	・支部大会支援　・会員納入管理
		副委員長	上定　正張	上定　正張（幹事）	(広島)	・プロポーザル、ＱＢＳなどの推進
				黒川　隆久（幹事）/笠川　隆夫	(岡山)	・ＣＰＤ対応　・本部への対応
				公原　浩平	(島根)	・発注者対応
				坂口　裕美	(鳥取)	・積算会等
	・建設相談委員会	委員長	佐々木　著	栗林　隆	(山口)	・建築相談への対応
		副委員長	栗林　隆	佐々木　著	(広島)	
				赤澤　輝彦	(岡山)	
				三原　貞雄	(島根)	
				仲村俊一郎	(鳥取)	
	・地域会			三村　夏彦	(山口)	・地域会との連絡調整
				仲子　盛進	(広島)	
				福田　修	(岡山)	
				亀谷　清	(島根)	
				仲村俊一郎	(鳥取)	
	・交流部会	吉野　勝夫	(広島)	吉野康夫、山本英樹、富田亜左夫、高井智幸、竹本雅治、日高勇生	支部活動担当	・交流部会
				松永高雄	岡山地域会担当	・女性部会
				高木文和、真壁忠仙	山口地域会担当	・支部活動実践
				高木文和、田邊　正	鳥取地域会担当	
				高木文和、田邊　正	島根地域会担当	
				山下忠明、佐藤逸文、平野正孝	部会活動担当	
				金田貴子	情報・広報担当	
事業部担当副支部長（山田）	・事業・教育委員会	委員長	宇川　民夫	久保　部廣	(山口)	・支部事業企画運営
		副委員長	久保　部廣	上定　正張（幹事）	(広島)	・支部大会
				宇川　民夫	(岡山)	・(仮称)支部見学資産の保護運営
				山根　秀明	(島根)	・建築家養成講座の実施
				武藤　浩	(鳥取)	
	・設計業務環境改善委員会	委員長	田中　輝幸	田中　輝幸（幹事）	(山口)	・新資格制度設計への対応
		副委員長	尾川　陽康	平田　欽也	(広島)	
				高田　一（幹事）/赤木　定	(岡山)	
				尾川　陽康（幹事）	(島根)	
				浜谷　浩平	(鳥取)	
	・環生・環境対応委員会	委員長	佐藤　正平	田尾　繁	(山口)	・環生活動支援
		副委員長	領見　恵	領見　恵	(広島)	・環境会実施
				佐藤　正平/秋田　賢治	(岡山)	・地球環境保全への啓蒙活動
				増野　元泰	(島根)	
				山下　克彦	(鳥取)	
	・UIA担当			三村　夏彦	(山口)	・2011年UIA大会への協力実施
				仲子　盛進	(広島)	
				福田　修	(岡山)	
				亀谷　清	(島根)	
				仲村俊一郎	(鳥取)	
直前支部長	・顧問・選挙管理委員会（非常設）	穂石　友伏	(島根)			・顧問委員会 ・選挙時の対応
支部長	・支部基本政策委員会	村重　保則	(山口)			・支部の長期的政策について(年1回程度)

■中国支部会員（151名）（平成22年3月末現在）

＜岡山＞(49名)
赤木定, 赤澤輝彦, 石原節夫, 上田恭嗣, 宇川民夫, 大石雅弘, 大倉修典, 大角雄三, 大丸松治, 神家昭雄, 神田二郎, 岸本泰三, 貴田茂, 木村旭, 倉森治, 黒川隆久, 佐々木満, 佐藤正平, 佐野宜夫, 柴田晴夫, 芝村満男, 塩飽繁樹, 新谷雅之, 菅野憲, 高田一, 武田賢治, 寺越則人, 中桐慎治, 中田利幸, 楢村徹, 中村陽二, 丹羽雅人, 則武克也, 花田則之, 藤澤敏典, 藤田佳篤, 松本正富, 丸川真太郎, 三宅和彦, 宮崎勝秀, 森原通仁, 柳勝巳, 山田孝延, 山田暁, 山名千代, 湯浅康生, 吉井深, 渡辺俊雄, 和田洋子

＜広島＞(52名)
石田平二, 今川忠男, 岩本秀三, 上定正張, 宇佐美紀, 遠藤吉生, 大江弘康, 大旗健, 岡河貢, 小川　晋一, 沖本初, 奥迫眞一, 奥田實, 梶本正博, 河口佳介, 北川昭夫, 久保井邦宏, 高畑憲明, 後藤亜貴, 境郁生, 坂本重幸, 佐々木著, 三分一博志, 清水泰, 杉田輝征, 髙志俊明, 竹内謹治, 垂井俊郎, 堤敏明, 土井一秀, 土井良介, 東宮年一郎, 土肥晶仁, 直井稔征, 仲子盛進, 中薗哲也, 奈波和明, 錦織亮雄, 西田一好, 平田欽也, 藤本和男, 藤本寿徳, 古本竜一, 細見恵, 堀江淳, 前岡智之, 前田圭介, 三島久範, 宮野鼻啓二, 宮本剛, 元廣清志, 森保洋之

＜山口＞(18名)
石丸和宏, 久保紳哉, 窪田勝文, 栗林隆, 田尾繁, 田中輝幸, 谷川清志, 土居郁夫, 中村正俊, 長野英彦, 永見龍一, 西村彰和, 原川伸二, 松嵜強司, 三村夏彦, 村重保則, 山下宏, 山根満広

＜島根＞(21名)
安部喜孝, 石倉保富, 宇佐美敦, 江角彰宣, 江角俊則, 尾川隆康, 小草伸春, 亀谷清, 白根博紀, 僊石友秋, 田原辰男, 寺本和雄, 西澤邦夫, 原浩二, 古山篤史, 牧戸捷弘, 増野元泰, 三原貞則, 矢田和弘, 矢野敏明, 山根秀明

＜鳥取＞(11名)
足立收平, 井手添正, 川中節男, 杵村優一郎, 木下正昭, 来間直樹, 田中博美, 塚田隆, 樋野朝昭, 山下卓治, 萬井博行